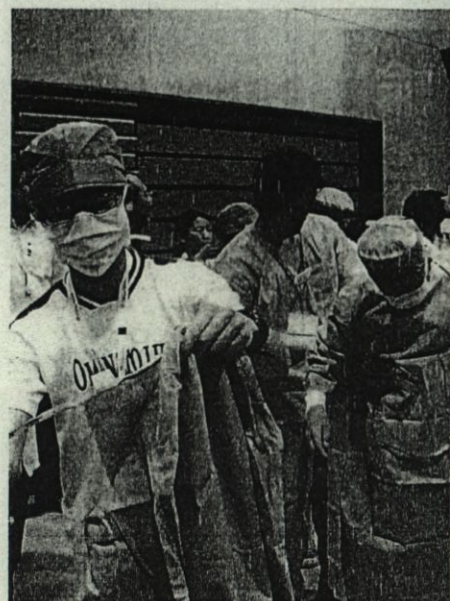


# 「外科医の卵」に期待



スタッフの介助で外科医に変身

外科手術用器材でシミュレーションを行った。衛生的に手術着を着ることができ、ガウンテクニクで外科医に変身した参加者たちは、電気メス・超音

七月二日、むつ来さま  
い館に於て弘前大学医学  
部附属病院外科が主催す  
る「外科体験セミナー」  
inむつが開催され、下  
北内外から五十二人の中  
高生が参加した。  
同セミナーは三年程前  
から県内の医師不足解消  
のきっかけになればと同  
病院消化器外科科学講座の  
袴田健一医師が中心とな  
ってボランティアで始  
められたもので、青森・  
八戸・五所川原に続いて  
今年むつ市が会場とな  
った。  
スタッフには同外科  
チームの他に、むつ総合  
病院医師・医学研修生や  
医療機器販売業者も加わ  
り日本中から集められた

波メスを使った模擬手術  
やシミュレーターでの腹  
腔鏡下胆嚢摘出手術の模  
擬体験、鏡視下手術用の  
鉗子の操作など七つの  
コーナーをグループに分  
かれ巡回しながらそれぞ  
れを体験。胃を切り離す  
際に使用される自動縫合  
器・吻合器コーナーでは  
「ファイヤー！」の掛け  
声で縫合器を作動、「ナイ  
スファイヤー」と拍手  
が響いた。

特に今回は、全国に二  
十四台しかなく今年四月  
に北海道・東北で初めて  
同病院に導入され実際に  
取り扱える医師も少数で  
ある最新医療支援ロボッ  
ト「ダヴィンチ」の操作  
体験にスタッフとして参  
加した医師達も興味津々  
であった。

閉会式には開始前に手  
術着で記念撮影した写真  
とともに弘前大学医学部  
認定の修了証が授与さ  
れ、「もう皆さん立派な  
外科医の卵になりました  
」と袴田医師からのお  
墨付きを貰った。

友達同士で参加した大  
湊高校二年生の杉本優希  
さんと二本柳こずえさん  
は看護師志望で「手術助  
手に興味があって参加し

ました。医者は難しいけ  
ど支える側に就きたいと  
思います。」と語った。



電気メスを使用しレバーを切り離す